



カウンセリングルームだよ

Vol. 36 (2012年2月発行)



NHK クローズアップ現代 (2012. 2.14 放送)

“産みたいのに産めない” ～卵子老化の衝撃～

世間に衝撃を与えた放送内容でしたので皆様にご紹介いたします。

知られざる卵子の老化

今増えているのが夫婦のどちらにも疾患がないのに妊娠出来ないというケース。主な原因は卵子の老化だといえます。どんなに見た目が若く見えても、卵子は若返りません。卵子の老化は、女性にとって避けられない現象です。卵子は産まれた時から体の中にあります。毎日作られる精子と異なり新しく作られることはありません。年を重ねるほど卵子も年をとり、減り続けるのです。

学会によると 35 歳で体外受精をした人のうち、子どもが産まれた割合は 16.8%。40 歳では 8.1%です。

こうした卵子の老化は、学校などできちんと教えられてこなかったのが実情です。不妊治療に訪れて初めて知る人が後を絶ちません。

現場の Dr は「同じ人が例えば 5 年前、10 年前だったらなんの苦労もせず妊娠していたんだろうなと感じます。」と言います。

“卵子老化”の現実 苦しむ夫婦

卵子の老化を知らなかったために、今苦しんでいる女性が多くいます。

44 歳女性 <不妊治療を始めて 4 年目 体外受精を繰り返し現在に至る>

仕事を覚えるのに必死だった 20 代、夫と 36 歳で出会ったが、責任ある仕事を任せられ多忙で、結婚したのは 40 歳、仕事優先の生活だった。

「今まで婦人科系で具合が悪くなることもなかったのに、結婚すれば子どもはできるものと思っていた。ショックを通り越して奈落の底に突き落とされた感じ」「仕事をしながら通院も辛いけど、どんなに頑張っても結果が出ないところが一番辛いです。若い時の卵子に戻りたい。」

医療法人社団 春音会
はるねクリニック銀座



“卵子老化” 独身女性の決断

関東地方に住む 33 歳の女性

現在、交際している男性はいません。卵子が老化することをインターネットで偶然知り、女性は去年ある決断をしました。卵子の凍結です。都内のあるクリニックには液体窒素で凍らせたこの女性の卵子が保管されています。いつか産める時が来るまで卵子の老化を止めたのです。この技術は本来癌患者が放射線治療の影響から卵子を守るためなどに使われるものです。しかし、独身女性からの強い要望を受け卵子の凍結を受け入れる所も出てきているのが実情です。この技術はまだ確立していないという指摘もあります。確実に子どもが産まれるとは限りません。それでも、この女性は将来の仕事と出産の可能性を残すにはこの方法しかなかったといえます。「産める時期と仕事の時期が重なっちゃって、リミットが迫っているんで」凍結された自分の卵子の写真を大切に持っていて、お守りにしていると言います。

“卵子老化”の衝撃

ゲスト 杉浦真弓さん <名古屋市立大学大学院教授>

私の所にも 40 代の患者さんたちがものすごく今、増加しています。中にはいろんな事情で避妊をされた方たちもいらっしゃって、今の不妊治療、流産に直面して初めてそのことを強く後悔している、そういった方がたくさんいらっしゃいます。

20 代の前半ですと 6%の不妊症が、40 代ですと 64%になります。ですから、やはり 20 代が一番妊娠しやすいと考えられると思います。体外受精さえすれば 100%妊娠できると、魔法の治療だというふうに勘違いをされている方もたくさんいらっしゃると言います。

《続きは次回号で》

カウンセリングは毎週土曜日に実施しています。お気軽にご利用ください。